2021 年度　春夏学期

授業改善アンケート調査結果

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科

大阪大学人間科学部・大学院人間科学研究科 評価委員会

授業改善アンケート調査結果

１．授業改善アンケートの概要

人間科学研究科では、2004 年度より、毎学期末に授業に関して受講生に尋ねるアンケートを実施している。講義科目を対象に授業内でマークシート用紙の配布・回収により実施していたが、2016 年度にグローバル 30 人間科学コース（以下、G30)、2017 年度には、講義科目以外の演習、実習、研究も対象科目となった。講義科目以外の科目についてはKOAN 上での回答を行っていたが、2019 年度春夏学期からは、KOAN 上での回答率の低さを改善すべく、すべてマークシート方式に変更した。2020 年度は新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から授業がオンライン化したことをうけ、QR コードを利用した非接触型の WEB 形式に切り替えた。本年度も同様の方式を採用している。実施期間は以下の通りである。

2021 年度春夏学期アンケート回答期間：2021 年 7 月 8 日～9 月 10 日

対象科目は、人間科学部・人間科学研究科で実施されている講義、演習、実習、研究を含む全科目である。講義科目と講義以外の回収率は以下の通りである。なお、講義科目および講義以外の科目について、対象科目数・回答数と科目群ごとの内訳を記す。受講登録者数に対する回収率は、22.9％であった（2020 年度春夏学期：42.3%, 同年度秋冬学期：20.3%)。

2021 年度春夏学期授業改善アンケート　講義科目
対象科目数・回答数

		対象科目数	回答数
学部科目	共通科目	5	184
	行動系科目	15	135
	社会人間系科目	11	37
	教育系科目	14	61
	共生系科目	10	24
大学院科目	共通科目	5	22
	行動系科目	12	34
	社会人間系科目	8	22
	教育系科目	12	40
	共生系科目	9	24
G30 科目		12	26
計		113	609

回収数 609／受講登録者数 2664＝回収率 22.9％

※1　基礎科目は、行動・社会人間系・教育・共生系科目に割り振られている。
　2　受講登録者数は、アンケートが実施された科目についての数値である。

　回収結果は数値化して集計し、自由記述分も含めて教員にフィードバックされている。さらに2010年度後期より、授業担当教員からアンケート結果を踏まえて授業の振り返りのコメントの提出を求めており、次回の授業の改善に役立てられている。

２．授業改善アンケートの結果

2021 年度春夏学期は新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から授業形態が対面・オンライン・ハブリッド型と多様化したことを受け、統一的な方法を取るべく、授業改善アンケートを WEB 形式に切り替えた。2021 年度春夏学期の授業改善アンケートの回収率は 22.9%となり、同様の方式で実施した 2020 年度秋冬学期の 20.3%から 2.6 ポイント上昇しているものの、紙媒体で実施した 2019 年度秋冬学期の 73.8%と比べると大幅に低下している。未曾有の変化への対応に追われた 2020 年度から 2021 年度の調査にかんしては前年度以前の記録と比較しえないとはいえ、授業を担当した教員からも形式変更に伴う回収率の向上に努めるようコメントがあった。この点は 2021 年度秋冬学期以降の調査の課題である。

主要な質問項目である、授業の満足度についての問 10「この授業は全体として良い授業だったと思いますか？」（1～5 の範囲で数値が高いほど高評価を意味する）については、平均が 4.40（2020 年度春夏学期 4.37, 同年度秋冬学期 4.36）であり、前年度よりも高い値となった。学系別集計によると、社会人間学系の「非常に良かった」と回答している学生の割合が、前年度より 15.3 ポイント、G30 の割合が 30.8 ポイント、共生学系の割合が 44.1 ポイント、と大幅に上昇している。この結果は、問 9「この授業で学問的知識が身についたと思いますか」について、社会系科目が前年度より 8.5 ポイント、G30 提供科目が 30.6 ポイント、共生系科目が 11.0 ポイント上昇していることからも、専門的知識の習得を求める学生の要望に応えているからだと考えられる。

満足度に関する問 10 以外の質問項目の概要は、以下の通りである。

問 1 の「この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？」に関しては、「80%以上出席」が 94.6%と前年度並みであった（2020 年度春夏学期 : 95.1%）。また、問 2 の「この授業の予習・復習にあてた 1 週間あたりの平均時間はどれくらいですか？」については経年変化を見ているが、今回「ほとんどなし」と答えたのは 13.3%となり、2020 年度春夏学期の 12.3%に引き続き改善の傾向がみられる（2019 年度春夏学期 : 29.5%）。この結果は、授業のオンライン化による課題提出状況の管理等と関連させて理解すべきものであると考えられる。

問 3「授業の内容の難易度はどうでしたか？」に関しては、「適切」であるとの回答が 68.6%と前年度並みであったが（2020 年度春夏学期 : 68.8%）、授業内容の理解度を尋ねる問 4「授業内容はよく理解できましたか？」は「強くそう思う」という回答が 20.7%と前年度より 3.6 ポイント上昇している（2020 年度春夏学期 : 17.1%）。授業方法の工夫等を尋ねる問 8「授業方法および資料についても、十分に工夫・準備されていましたか？」に対して「強くそう思う」と答えた学生の割合が 41.7%と前年度並みに高い値となったことからも、教員・学生双方に大きな負担が生じている状況にあっても、授業で扱う教材選定の適切さや、授業の進行形式の十分な工夫・準備がなされており、そのことが問 10 の満足度の向上に寄与しているといえる。

以下より、2021 年度春夏学期の授業改善アンケート結果の詳細を示す。
※学系別集計については以下のように集計している。

・自由回答項目については除かれ、選択式の設問について集計されている。

・学系別集計は、学部科目については各科目が属するカテゴリーごとに集計を行った。大学院科目については、回答数が少ない学系があるため一括して集計を行った。

・豊中キャンパスで開講される基礎科目は、行動・社会・教育・共生科目に割り振られている。
・学系の共通科目は、学系別集計に含めていない。
・各学系によって１科目あたりの受講者数などの状況が異なるため、科目群間でアンケート結果を単純に比較できない点に留意する必要がある。

授業改善アンケート

大阪大学　人間科学部・人間科学研究科

2021年度春学期

全体集計

履修者数	2664
回答数	609
回答率	22.9%

番号	内容	回答率（%）	全体平均
1	この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？	94.6 / 3.3 / 0.8 / 1.0 / 0.3	4.91
2	この授業の予習・復習にあてた1週間あたりの平均時間はどれくらいですか？	15.1 / 14.6 / 33.2 / 24.1 / 13.0	2.95
3	授業内容の難易度はどうでしたか？	4.3 / 24.8 / 68.6 / 2.0 / 0.3	3.31
4	授業内容はよく理解できましたか？	20.7 / 61.1 / 13.6 / 4.1 / 0.5	3.97
5	授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の内容を知るのに役立ちましたか？	23.2 / 54.2 / 18.9 / 2.6 / 1.1	3.96
6	授業はシラバスに沿って展開されましたか？	31.7 / 51.7 / 14.6 / 1.1 / 0.8	4.12
7	授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？	49.8 / 42.9 / 5.4 / 1.5 / 0.5	4.40
8	授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？	41.7 / 47.8 / 8.2 / 1.6 / 0.7	4.28
9	この授業で学問的知識が身についたと思いますか？	34.2 / 56.0 / 7.9 / 1.5 / 0.5	4.22
10	この授業は全体として良い授業だったと思いますか？	52.7 / 37.6 / 7.1 / 2.0 / 0.7	4.40

グラフ内数字は回答率（%）

回答凡例	青	緑	黄	薄桃	赤	白
配点	5	4	3	2	1	-
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

相関係数は±1に近いほど関係が強く、0に近いほど弱いことを意味します。プラスは正の相関関係、マイナスは負の相関関係です。総合評価であるQ9とQ10はどの項目と関係が深いのか、授業の何を改善すればよいのかの参考値として下さい。相関係数の「-」は計算不能を示します。（例：回答者全員が同じ回答、回答データが1件のみなど）

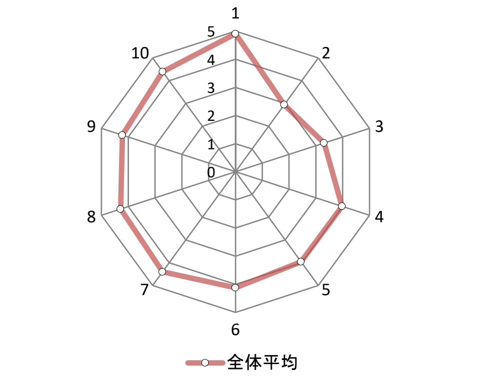
【Q9との相関】

	項目	相関係数
Q1	出席率	0.236
Q2	予習・復習の時間	0.250
Q3	授業の難易度	-0.171
Q4	授業の理解度	0.556
Q5	シラバスの内容	0.469
Q6	シラバスとの整合	0.365
Q7	興味・関心	0.469
Q8	授業方法と資料	0.505
Q10	総合評価	0.545

【Q10との相関】

	項目	相関係数
Q1	出席率	0.215
Q2	予習・復習の時間	0.079
Q3	授業の難易度	-0.214
Q4	授業の理解度	0.510
Q5	シラバスの内容	0.409
Q6	シラバスとの整合	0.322
Q7	興味・関心	0.609
Q8	授業方法と資料	0.658
Q9	学問的知識	0.545

【質問別得点】



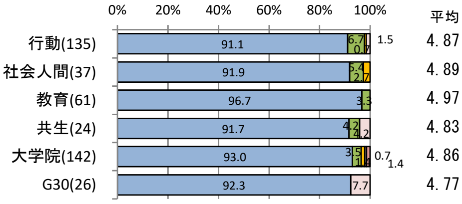
大阪大学　人間科学部・人間科学研究科
授業改善アンケート　2021年度春学期

学系別集計【全体】

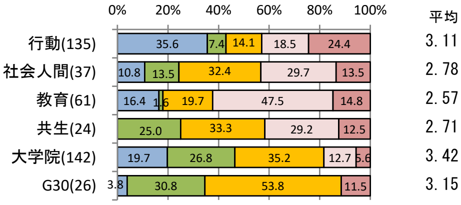
※グラフ内数字は回答率（%）

回答凡例	(青)	(緑)	(黄)	(薄桃)	(赤)	(白)
配点	5	4	3	2	1	−
質問1	80%以上	60～80%	40～60%	20～40%	20%以下	不明（無回答を含む）
質問2	3時間以上	1.5時間～3時間	30分～1.5時間	30分未満	ほとんどなし	
質問3	難しすぎる	やや難しい	適切	やや易しい	易しすぎる	
質問4～9	強くそう思う	そう思う	どちらとも言えない	そう思わない	全くそう思わない	
質問10	非常に良かった	まあ良かった	普通	あまり良くなかった	かなり良くなかった	

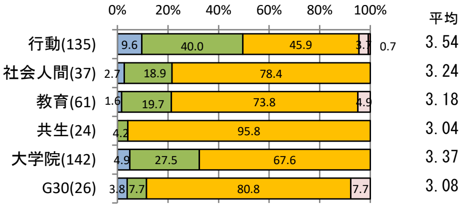
１．この授業へのあなたの出席率はどうでしたか？



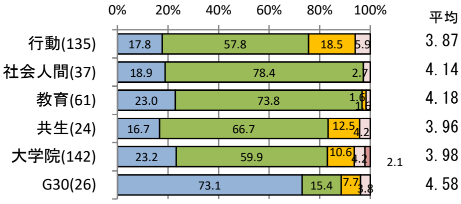
２．この授業の予習・復習にあてた1週あたりの平均時間はどれぐらいですか？



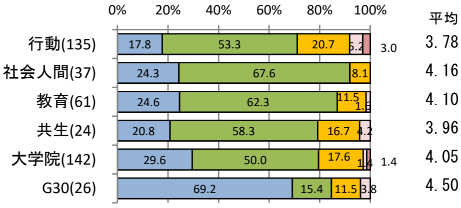
３．授業内容の難易度はどうでしたか？



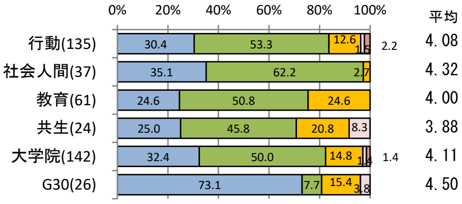
４．授業内容はよく理解できましたか？



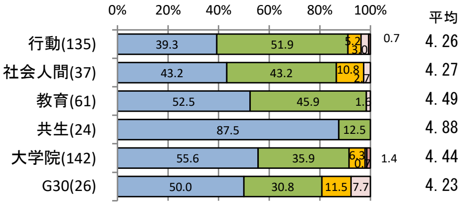
５．授業内容、学習方法などのシラバスの内容は授業の 内容を知るのに役立ちましたか？



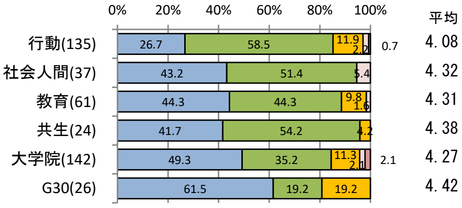
６．授業はシラバスに沿って展開されましたか？



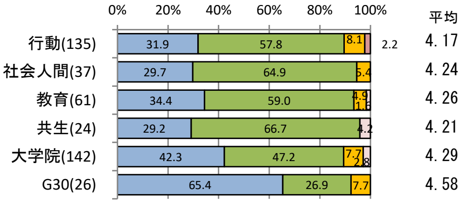
７．授業の内容は、興味・関心を持てるものでしたか？



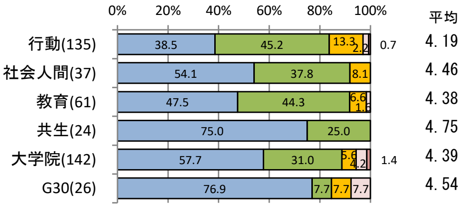
８．授業方法および資料は、十分に工夫・準備されていましたか？



９．この授業で学問的知識が身についたと思いますか？



１０．この授業は全体として良い授業だったと思いますか？



＜満足度上位の科目＞

問 10 より、満足度の結果を示す（有効回答数が 10 以上の科目のみ)。平均値が高いほど受講生の満足度が高いことを意味する。アンケート対象科目 113 科目のうち、有効回答数が 10 以上の科目は 9 科目であり、平均値 4.40 を上回ったのは 5 科目であった。

2021 年度春夏学期講義科目
満足度上位の科目一覧

【学部】

	科目名	有効回答数	問 10　平均値
1	自然科学と人間科学	34	4.56
2	教育工学Ⅱ	19	4.53
3	人間科学概論	129	4.48
4	集団力学	21	4.43

【大学院】

	科目名	有効回答数	問 10　平均値
1	比較発達心理学特講Ⅱ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	11	4.91

3. 担当教員からのコメント

以下は、授業改善アンケート対象科目（ただし、基礎科目は除く）について、担当教員がアンケート結果も含めて授業を振り返ったコメントの一覧である。

教員名： 岡部　美香	教育思想史・人文学と人間科学
コメント ⇒　コメントをありがとうございました。有意義な時間になったという感想をいただき、うれしく思っています。いただいた評価を次の授業の改善に生かしていこうと思います。	

教員名： 鹿子木　康弘	比較発達心理学演習Ⅰ・行動生態学実験実習Ⅱ（心理演習）・比較発達心理学特定演習Ⅰ・比較発達心理学特講Ⅱ（心理的アセスメントに関する理論と実践）・比較発達心理学特別演習Ⅰ
コメント ⇒　アンケート結果を見ると、演習系の授業では、各項目ともおおよそ平均以上の評価を得ているようである。難易度においても、適切の評価を得ており、内容に関しては特に問題ないかと思われる。講義系の授業も、おおむね平均以上の評価を受けているが、シラバスに沿って授業が行われていたかという点が相対的に低かった。これは授業において毎回、学生の質問に対するレスポンスの時間を多くとっており、そのため、シラバスにある内容の消化が遅れたしまったことが原因として考えられる。次回は、この点に注意して、授業を進めていきたいと思う。	

教員名： 檜垣　立哉	共生の人間学特別演習Ⅰ-a・共生の人間学特定演習Ⅰ-a・現代人間学演習Ⅰ・共生の人間学演習Ⅰ・共生学実験実習Ⅱ
コメント ⇒　大学院ゼミに関して、コロナ対策および運営について忌憚なき意見があった。コロナ対策は人数と教室の大きさ故に難しさがあったが対処すべきこととおもう。そのほかの点についても意見を受け止め、改善したい。 学部ゼミはおそらく回答がなかった。今回はZoomと対面の同時進行であったため、行き届かない点や困難な点があったであろうとはおもう。いつまでZoomと同時進行がつづくのかわからないが、この点さまざま留意したい。	

教員名： 足立　浩平	情報処理演習 II・行動統計科学演習Ⅰ・心理学統計法・行動生態学実験実習 II・行動統計科学特定演習Ⅰ・行動統計科学特講Ⅰ・行動統計科学特別演習Ⅰ
コメント ⇒　担当科目全体についてまとめて，次にコメントします．数理科学系の分野は一見難解で，すべて理解するのは不可能なので，理解できなくてもよい部分を見出す嗅覚を持つことが大切です．	

教員名： 入戸野　宏	認知心理生理学（神経・生理心理学）・基礎心理学特講Ⅰ
コメント ⇒　今年度は春学期のみの開講であり，学部専門科目「認知心理生理学（神経・生理心理学）」と大学院科目「基礎心理学特講Ⅰ」は，どちらも 15 回の授業を 8 週間で実施した。毎週リアルタイム講義 1 コマとオンデマンド講義 1 コマを行った。対面授業は初回のみ（大学院科目は最終回も）であった。そのため CLE を使って授業後に小テストを行ったり，質問を受けつけたりして，コミュニケーションをとる工夫をした。授業改善アンケートは，概して高評価であった。総合満足度は，認知心理生理学 4.44，基礎心理学特講 5.00 であった（全体平均 4.40）。	

教員名： 野村　晴夫	臨床心理面接特講Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）
コメント ⇒　回収率が低いため，今後，その向上に努めます。少数の回答では，概ね高評価を頂戴しましたが，予習復習の充実に課題を残しました。	

教員名： 管生　聖子	心理学的支援法・臨床心理学研究法特講
コメント ⇒　授業アンケートへのご回答、ありがとうございました。回答者数が多くないので一概には言えませんが、自身で学びを深めてゆける大学生・大学院生の皆さんから、講義に対しての興味関心が高かったという結果を得られたことは嬉しいことだと思います。担当講義が、受講生にとって今後の学びをさらに広げ深めてゆくきっかけになればと思います。	

教員名： 佐々木　淳	臨床心理学特講Ⅰ
コメント ⇒　オンラインでの授業は非常に難しい面があったが、ある程度の成果は認められるアンケート結果だったと考えています。今後も興味を持ってもらえる授業づくりに努めたいと思います。	

教員名： 中井　宏	産業心理学（産業・組織心理学）・心理学実験
コメント ⇒　産業・組織心理学については、対面とオンラインを自由に選べる形式としたことが好評だったので、以降も可能な限りハイブリッドでの授業としたい。 ⇒心理学実験に関しては、レポート提出期限（1 週間）が短いとの意見が散見されたが、成績登録期限を考えると期限延長は難しい。ただし、各テーマ 2 週～3 週かけて実施しているため、それぞれの 1 週目が終わり次第、序論部分や方法など書けるところから書き始め、実質的にレポートを執筆する期間を 1 週間より長く取れるよう強く指示したい。	

教員名： 綿村　英一郎	集団力学
コメント ⇒　アンケートへのご協力ありがとうございました。授業方法（対面かオンラインか）については評価が分かれており，受講生の皆さんにとってベストな対応ではなかったことをお詫びします。社会学の視点からの鋭いご指摘は非常に参考になりました。今後の授業に生かしてまいります。どうもありがとうございました。	

教員名： 辻　大介	人間科学概論
コメント ⇒　学部新入生向け導入講義「人間科学概論」を主担当しましたが、〈全体として良い授業だったと思うか〉という質問項目には全体平均を上まわる評価がついていたので、ひとまずホッとしています。ただ、昨年度のこの講義の評価に比べると下がっていたのは、やはり反省点です。今年度は初回こそ対面授業ができたものの、その週のうちにコロナの感染状況が急拡大し、メディア授業に切り替えざるをえなくなりました。その後、感染がやや落ち着くとともに、他の授業は対面が再開されましたが、この講義は履修者140名の大人数であること、また半ば導入基礎ゼミのような役目もあるためグループワークが不可欠であること、これらの理由により対面に戻すには他の授業以上に慎重さが求められ、結果的にほとんどメディア授業で継続することになりました。このことが昨年度より評価が下がった（他の対面での授業と比べたときの「相対的不満感 relative deprivation」が高まった）一因かと思いますし、実際、自由記述のなかにも「仕方ないが対面ならもっと良かった」という意見がありました。来年度はこの講義の主担当からは外れますが、コロナ禍が収束し、対面で落ち着いて授業が受けられる状況になっていることを祈っています。	

教員名： 平井　啓	健康・医療心理学 ・ 人体の構造と機能及び疾病 ・ 精神疾患とその治療
コメント ⇒　「健康・医療心理学」は、対面とZOOMでのオンラインを組み合わせたハイブリッド授業をおこなった。講義ごとの質疑と3回の小課題、最終テストをそれぞれCLEをもちいておこなった。小課題については個別のフィードバックを行った。来季は、講義部分をオンデマンド型とし、質疑とディスカッションを対面で行う反転型の授業の導入を計画している。 「人体の構造と機能及び疾病」，「精神疾患とその治療」について保健学科の授業との合併授業である。それぞれCLEを利用し、オンデマンド型の授業となった。合同授業であるため授業連絡の一部が届いていないことがあり、保健学科の担当教員と対応について、それぞれ協議を行った。来年度の「人体の構造と機能及び疾病」についてはCLEとKOANを統一して運用するように調整中である。「精神疾患とその治療」については講義部分がオンデマンド型、講義をうけての事例検討・ディスカッションを対面で行う形式への移行を検討中であり、保健学科の担当教員と調整を行っている。	

教員名： 老松　克博	臨床心理学演習　Ｉ・臨床教育学実験実習Ⅱ（心理演習）・臨床心理学特定演習Ｉ・臨床心理査定演習Ｉ（心理的アセスメントに関する理論と実践）・臨床心理学特別演習Ｉ

コメント
⇒　新型コロナウィルス感染拡大防止対策でメディア授業が多かったため，教員との距離が遠いと感じた人が多かったかもしれません。しかし，私としては，かえって充実した内容になったところもあったと思います。動画をもっと使うことも考えましたが，このたびは言葉と文字で丁寧に伝えることを優先し，くりかえし味わってもらえるよう心がけました。臨床における味わうことのたいせつさを少しでも感じてもらえていたらさいわいです。

教員名： 藤川　信夫	教育人間学　Ｉ

コメント
⇒　回答率が低かったという問題もありますが、項目２の予習・復習時間の設定、項目４の授業内容の理解度について課題が残されていると思います。とりわけ、２については、発表を担当する学生のみならず、それ以外の学生に対しても何らかの課題の設定を考えてみたいと思います。

教員名： 吉川　徹	社会環境学実験実習 II・社会調査特定演習Ｉ・人間科学基礎実習・社会調査特別演習Ｉ

コメント
⇒　前期に実施された授業評価アンケートについて受講生からは、評価の情報がないようです。
回答はKOAN経由での提出でしたので、コメントについては個人が特定される可能性が大いにあると思います。受講生にはそうした危惧があって当然でしょう。さらに回答は任意ですので、協力拒否をする自由は受講生側にあります。
以上を考えると、私が授業で説明している社会調査の倫理や個人情報にかかるリスク等の知識を正確に理解すれば、授業評価アンケートに協力しない受講生が多くなるのは致し方ないかと思っています。
全数授業改善アンケートは、実施していることに意義があるという「調査のための調査」として形骸化してしまっているようです。部局としてはそろそろ改めるべき時期にあると思います。当事者である教員、学生の見識を広く問いたいところです。

教員名： 中野　良彦	行動形態学

コメント
⇒　回答の回収数が低かったため、アンケート結果に対するコメントはありません。
やはり、もっとアンケートの回収率を上げるための方策が必要ではないかと思います。

教員名： 渥美　公秀	共生行動論演習Ⅰ・共生学実験実習Ⅱ・Disaster Prevention and International Cooperation・共生行動論特講Ⅰ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）

コメント
⇒　各授業の難易度について少し省みる必要を感じています。授業内容の中でも、特に事例の紹介などが簡単に思えたのかもしれません。理論的な部分こそわかりやすく、事例はもう少し複雑なところまで紹介するなど工夫を重ねていきたいと思います。

教員名： 西森　年寿	教育工学Ⅱ・臨床教育学実験実習 II・教育工学特講Ⅰ・教育工学特定演習Ⅰ・教育工学特別演習Ⅰ

コメント
⇒　同形態のオンライン実施であった昨年と比較すると評価が低下している部分があるので、オンライン２年目で私の熱量が低かったか、みなさんの状況の変化か、などと考えたりしております。しかし、教育工学 II は次年度以降担当が変わるので、ひとまずラストの評価となりました。また、類似の内容で授業できる機会があればみなさんからのフィードバックを生かしたいと思います。
また、今回大学院の授業のほうで例年より多く回答をいただき、新鮮な意見をいただけました。少人数なので、なかなか言いにくかったと思うのでありがたかったです。演習のほうは、人数が多くなってきているし、今後もオンラインだと思うので、参加が活性化できるような工夫が大事だなと、強く認識できました。

教員名： 篠原　一光	応用認知心理学演習Ⅰ・人間行動学実験実習 II・応用認知心理学特講Ⅰ・応用認知心理学特定演習Ⅰ・応用認知心理学特別演習Ⅰ

コメント
⇒　対面とメディア（リアルタイム形式）の併用で実施したが、特段の問題の指摘はなかった。今後も対面・メディアの併用を継続して、受講生にとってより有用な講義となるよう工夫を行っていきたい。

教員名： 森川　和則	人間行動学実験実習 II・基礎心理学演習　Ⅰ・Psychology of Perception and Cognition

コメント
⇒　2021 年度前期は最初オンライン授業を実施していたが、感染状況の改善に伴い途中から対面授業に切り替えた。オンライン授業に比べ、対面授業のほうが学生の反応が良く、評価も上がったように思う。７月末から感染者数が再度増加し始めたが、結果的には対面授業を行なって良かったと感じる。

教員名： 安元　佐織	人間科学特殊講義 III
コメント ⇒　コロナ禍で対面とオンラインを併用しての授業となりましたが、受講生の皆さんが柔軟に対応してくれたことで、楽しく授業を進めることができました。本講義は、英語で実施しています。英語での講義を始めて受講するという学生さんが大半でしたが、英語で意見を述べ、議論し、またレポートを書くという過程を通して、多くの事を学べたと感じてもらえたら嬉しく思っています。	

教員名： 稲場　圭信	共生社会論演習 I ・共生社会論特講 III
コメント ⇒　共生社会論演習１ コロナ禍にあってオンライン形式になりましたが、ディスカッションができてよかったです。 シラバスの通りに進まなかった部分が反省点で、次年度は改善します。 結果としては、コロナ禍の対応の中でも全体として良い授業 5.00 だったので、よかったと思います。 ⇒　共生社会論特講Ⅲ コロナ禍にあってオンライン形式になりましたが、ディスカッションができてよかったです。 シラバスの通りに進まなかった部分が反省点で、次年度は改善します。 結果としては、コロナ禍の対応の中でも全体として良い授業 5.00 だったので、よかったと思います。	

教員名： 髙田　一宏	コミュニティ教育学特講・現代日本の教育問題
コメント ⇒　「コミュニティ教育学特講」は回答者が１人、「現代日本の教育問題」は回答者が３人しかありませんでした。前者はそもそも受講者が少なかったので仕方がありませんが、後者はオムニバスのオンライン形式の授業であったため、アンケートへの協力依頼が十分にできなかったと思われます。また、オンライン形式の授業については、独自の内容でアンケートをとってもよかったと思います。	

教員名： 青野　正二	卒業演習
コメント ⇒　前期に担当した演習の授業では、これまでに学習してきたことの再確認も兼ね、さらに実習などを通じて、理解を定着させることを目指した。また、文献講読では、専門書や論文などの文献を単に理解するだけでなく、そこからどのような問題点が見出せるかに重点を置いた。その結果、不明な点があれば自ら調べ、さらに自主的に課題を見いだして解決していこうとする姿勢がみられた。これは、今後研究を開始していく上で効果が期待できるのではないかと思われる。	

教員名： 野坂　祐子	教育心理学演習Ⅰ　・　教育・学校心理学　・　臨床教育学実験実習Ⅱ（心理演習）　・司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開　・　教育心理学特別演習Ⅰ
コメント ⇒　・演習（ゼミ）や実験実習については、回答者の取り組みも積極的でよかった。 ・「司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開」は、予習時間が十分にとられており、熱心に受講されたことがうかがえたが、負担が大きいと感じた受講生もおり、内容の難易度の感じ方も個人差があるようだった。当該の科目に関して専門外の院生も受講するため、内容や課題（評価方法を含む）については検討したい。 ・全体として、どの教科も回答率が低かった。できるだけ担当教員からも回答を促すよう努めたいが、アンケートの実施方法も何か改善できればよいと思う。	

教員名： 北山　夕華	Special Topic in Human Sciences IV（Identity and Citizenship）
コメント ⇒　あまり回答率が高くありませんでしたが、学生からの評価を知ることができ参考になりました。今後の授業の改善に生かしたいと思います。	

２０２１年度人間科学研究科／人間科学部　春・夏学期授業アンケート回答結果　計２６名分